

第21回日本臨床腫瘍学会学術集会 【JSMO2024】

Break the Borders and Beyond
～ for our patients ～



イブニングセミナー 13

がん患者のアピアランス支援 —抗がん剤脱毛への最適なアプローチを探る—

Supporting Cancer Patients' Appearance: Exploring the
Optimal Approach to Chemotherapy-Induced Alopecia

開催日時 2024年2月22日(木) 18:20～19:10

会場 名古屋国際会議場
Room13 (2号館 1F 展示室 211)

司会

大分大学医学部長
大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

演者

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]
准教授

河野 洋平 先生



演者

大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]
准教授

河野 洋平先生

がん患者のアピアランス支援 —抗がん剤脱毛への最適なアプローチを探る—

がん罹患し治療を受けている患者数は現在163万人とされ、その治療成績向上に伴い、がん経験者数も増加している。がん患者のサバイバーシップ支援が求められ、治療に伴う脱毛など外見変化に対する医療現場のサポートの重要性はますます高くなっている。

我々は酸化ストレスが関与する抗がん剤脱毛の病態に対して、抗酸化物質 α リポ酸誘導体の有効性を示してきた。臨床研究では多機関共同研究による乳がん患者100名を対象として、化学療法期間中に α リポ酸誘導体を頭皮に塗布し、脱毛後の回復を促進する結果を示した。リバーストランスレーショナル研究として α リポ酸誘導体の効果について頭皮冷却療法との作用の相違点や併用効果の可能性など基礎研究にて検討した。シクロフォスファミド誘発脱毛モデルにおいて、皮膚冷却および α リポ酸誘導体経皮投与はいずれもシクロフォスファミドにより起こる皮膚血管透過性亢進を抑制した。その作用機序として α リポ酸誘導体が血管内皮細胞のアポトーシスを抑制したことを報告した。研究成果に基づいて開発上市された α リポ酸誘導体配合頭皮用ローションは消化器がん患者における回復期の毛質を改善する可能性も示している。

今後も基礎・臨床研究から得られる結果を考察しながら、持続的な抗がん剤脱毛研究の推進と、がん患者のQOL向上を目指した取り組みを継続する。

略歴等

【略歴】

2001年 3月 大分医科大学医学部卒業
2001年 5月 大分医科大学外科第一(研修医)
2007年 5月 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員
2012年 3月 大分大学医学部 博士課程 修了
2016年 4月 豊後大野市民病院 外科部長
2017年-2022年 6月 大分大学医学部 消化器・小児外科
高度救命救急センター 助教
2018年-2019年 8月 米国Weill Cornell Medicine
Visiting Fellow

2022年 7月 大分大学医学部
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス] 准教授

【主な学会活動】

日本外科学会 専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

MEMO

Aderans

